

2 エンジン

2・1	3Y-Pエンジン	2-2
	ターリング	2-2
	フューエル	2-3
	エミッションコントロールシステム	2-4

2-1

3Y-P エンジン

■概要

3Y-P (LASRE 3Y-P) エンジンは、燃料、冷却系の一部変更により低温始動性の向上および軽量化をはかりました。

■機構説明

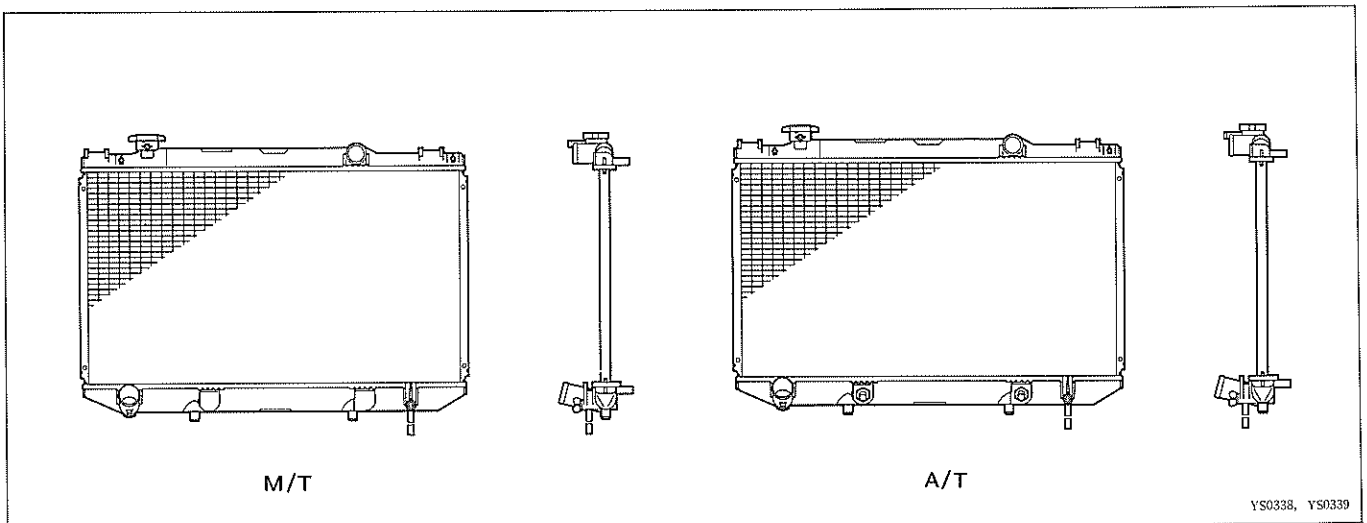
□クーリング

1. ラジエーター

- タンク部を小型の樹脂製に変更し、軽量化をはかりました。
- コアのチューブピッチおよびフィン形状変更により軽量化をはかりました。

仕様

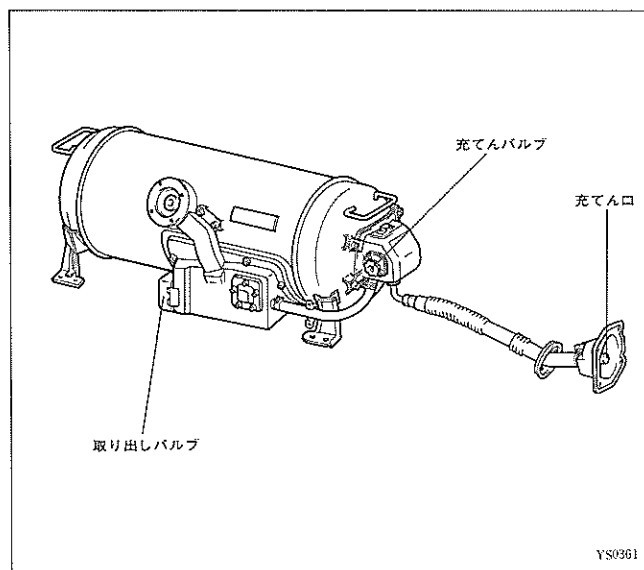
		M/T	A/T
コア形状		NSR	←
フィンピッチ (mm)		3.5	←
コア寸法 (mm) (幅×高さ×長さ)		660.8×375×16	←
乾燥重量 (kg)		3.5	3.9
冷却水容量 (ℓ)		1.8	1.6
オイルクーラー	コア形状		多板式
	油容量 (ℓ)		0.08



□フューエル

1. フューエルタンク

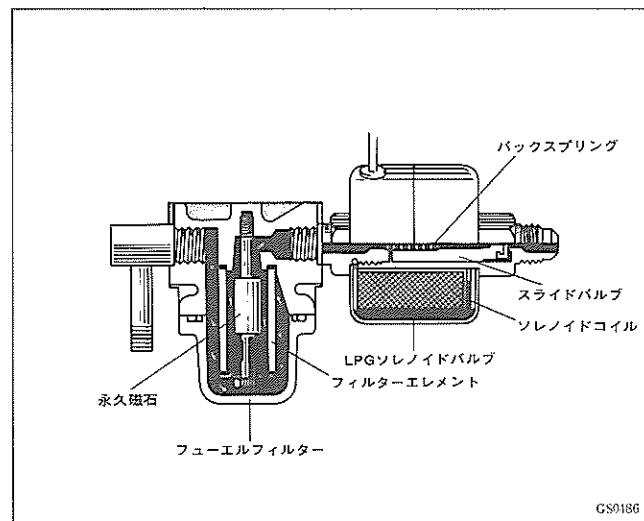
- フューエルタンクはセミコンテナ式でラッゲージルーム内前面に取り付けました。
- タンク容量は従来通り90ℓとしました。
- 充てん口は右ウォータパネル部に設け、フューエルタンクまでを高圧ホースで結びました。
- 充てんバルブ、取り出しバルブの位置を変更しました。



2

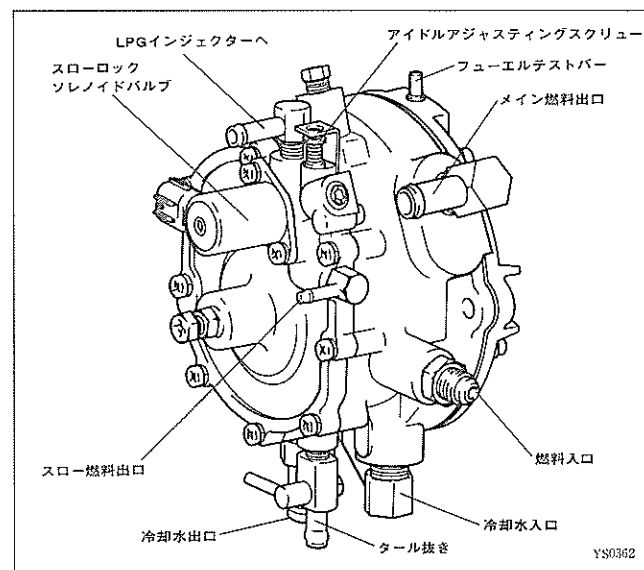
2. LPG ソレノイド & フューエルフィルター

- LPG ソレノイドをLPG レギュレーター上部に取り付け、LPG スイッチにより、ソレノイドに流れる燃料の制御を行います。また、メインフューエルカトリレーによりエンジン回転5400rpm 以上で、燃料カットを行います。
- ソレノイドバルブの直前には、フューエルフィルターを設け、エレメントと永久磁石により燃料のろ過を行います。



3. LPG レギュレーター

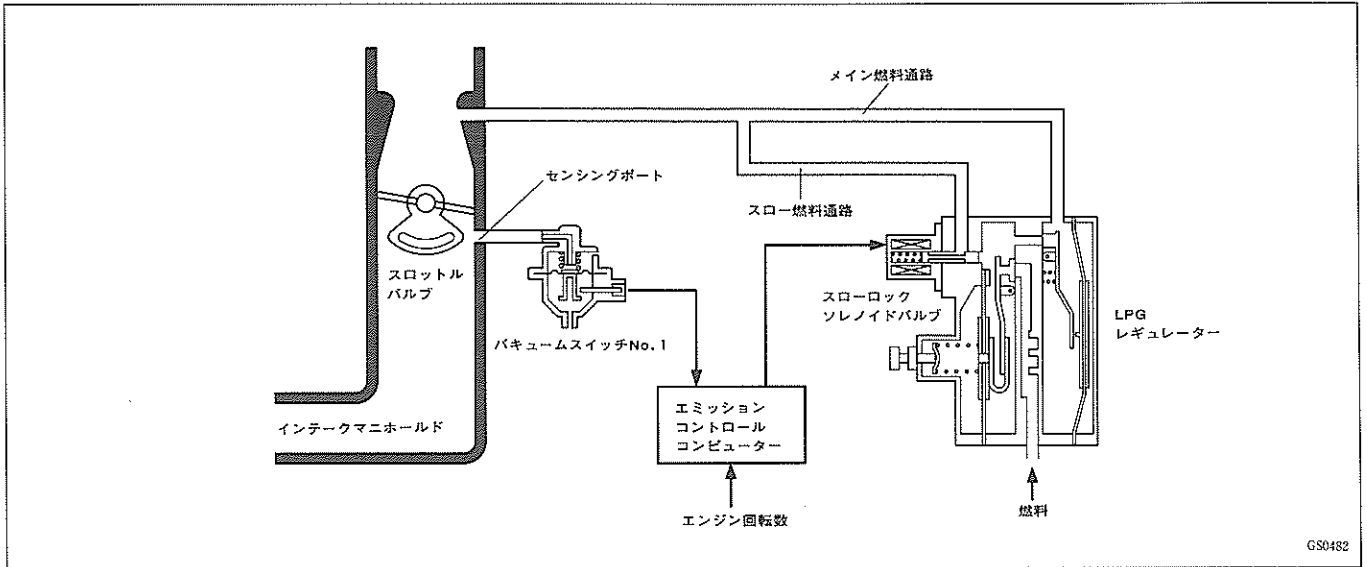
- 従来のスロー燃料遮断用のスローロックダイヤフラム方式を廃止して、スローロックソレノイドバルブによるスロー燃料遮断方式を採用し、低温始動性、低速出力の向上および部品の簡素化をはかりました。
- スローロックソレノイドバルブは、コンピューターにより制御され、エンジン停止時および減速時にスロー燃料を遮断します。また、メインリレーによりイグニッションスイッチ OFF 後0.5秒間スローロックソレノイドバルブに通電し、再始動性の向上をはかりました。
- アイドルアジャスティングスクリューの位置を変更し、作業性の向上をはかりました。



□エミッションコントロールシステム

1. 減速時フューエルカット

●減速時にスロー系の燃料をカットすることにより燃費の向上, CO, HC の低減, 触媒の過熱防止をはかりました。



▶構造と作動

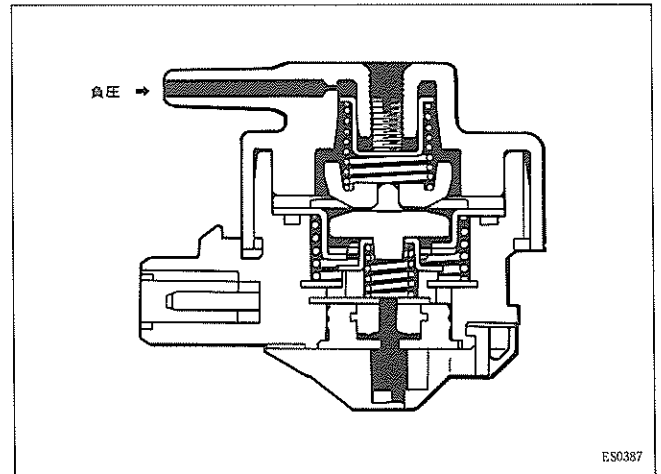
【1】構造

〔1〕バキュームスイッチ No. 1

エンジンルーム内フェンダーエプロンに取り付け、キャブレターのセンシングポート負圧により減速状態を検出し、コンピューターに信号を送ります。

仕様

作動負圧 (-mm Hg)	400
---------------	-----



【2】作動

〔1〕エミッションコントロールコンピューター

エンジン回転数が1500rpm 以上の減速時に、バキュームスイッチに設定圧 (-400mmHg) 以上の高負圧がかかると、コンピューターはスローロックソレノイドバルブへの通電を遮断し、スロー燃料をカットします。